

新島襄のこころ—イメージを通して— (8)

校章の考証

竹中正夫

新島襄が親しんだニューイングランドの学校には、それぞれユニークな校章がある。それらは、学校の精神を代表するもので、その多くには開かれた聖書（オープンバイブル）のデザインが入っている。ニューイングランドのピューリタンたちが聖書を中心に生活を形成するように心掛けていたことを物語っている。

新島が最初に学んだアンドーヴァーのフイリップス・アカデミーの校章をみてみよう。これは、独立戦争の発端をなした銀細工師ポール・リベラがデザインしたものであり、仲々芸がこまかい。さんと輝く太陽の下に蜜蜂が花の蜜をせっせと集めている。下には「終りは、はじめに依存す」という格言があり、若いときからの習性が

その人の終わりを飾ることを示唆している。太陽の中には、ラテン語で“Nonsibi”

ということばが刻れている。あなた自身のためでなく」という精神をあらわしている。

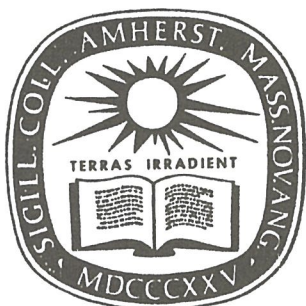
アモスト大学の校章には、開かれた聖書がある。その上に太陽が四方を照し、TERRAS IRRADIANT（世思に光を照らし輝かそう）という標語がある。ニューイングランドの人々の多くは、カルヴァンの教説をうけいれ、ひたすらに神の栄光をあらわすこと（*solus gloria*）を人生の目標としていた。

つぎの段の右が、ハーバード大学、左がイエール大学の校章である。ハーバードは三つのオープン・バイブルにVERTITAS（真理）の言葉が刻まれている。左側の

イエール大学のものは「光と真理」（LUX ET VERITAS）の標語の上にやはり、オープン・バイブルがあり、ヘブル語で、「ウリムとトンニム」のヘブル語の文字がある。これは出エジプト記に二八ノ三〇にあることばで、イスラエルの祭司が神のことばをきく託宣の籤をあらわしている。聖書の周囲には光があり、標語の光と真理をここでもあらわしている。

下段は、二年前から定められた同志社の校章であるが、クラーク記念館の下に、開かれた聖書の中に、「真理はあなたがたに自由を得させるであろう」（ヨハネによる福音書八ノ三二）の聖句がある。当初これは揭示の紙のようにしてピンではつてあった。本年からオープンバイブルとなった。その相異はきわめて大きい。

（大学神学部教授）



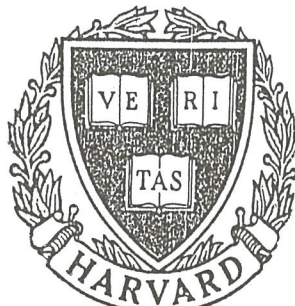
アーモスト大学



フィリップスアカデミー



イエール大学



ハーバード大学



同志社大学